

中 央 公 園

こんにちは。ツッコミ・ゆっきーです。千葉市内にある地図ラー的な萌えポイントを、熱くツッコミを入れながら楽しく解説していくシリーズです。

このところの運動不足と食べ過ぎでやや肥大化している私。仕事が忙しくてストレスが溜まって、こういう症状になる人は多いだろうけど、私の場合は違う（キッパリ！）。子供の頃も学生時代もまったく運動経験のない私は、人生常時万年運動不足状態。今さらそれが原因で太ることはない。となると、原因はやっぱり食べ過ぎしかない。そうだ。それさえ気を付ければいいのだ…。

で、私の弱ったカラダを労わる意味もあって、今日皆さんをご案内するのは近くて平坦で安易な場所。ま、そんなワケなので軟弱ヤワ歩きにお付き合いいただければと。

千葉市の玄関口である JR 千葉駅から未来都市を思わせる風情の駅前ロータリーを抜け、有事の際にはここは滑走路として使われるのでは？ と思ってしまうほど道幅のある駅前大通り（このネーミングは安易だ…）を進んでいくと、千葉市自慢のモノレールの線路の向こう側に千葉パルコが…、あれ？ ない？ ああ煌びやかな建物はいずこへ？

いや、下手なリアクションはやめておこう。我らが千葉市民の誇りでありファッションの聖地だった天下のパルコは 2016 年に無念の撤退になったのだ。パルコがこの地に開店した 1976 年、当時の千葉の若者たちは狂喜乱舞して、7 日間にわたって「だらだら祭り」というお祭りを挙行了たらしい（注）。無理もない。それまでの千葉は、東京や横浜から徹底した上から目線攻撃を甘受してきたのだ。でも、このパルコの進出によって、こっちにはパルコだってあるんだゾ、という論戦を張れるまでになった。



営業していた頃のパルコ



現在（2018 年 4 月）

（注）「だらだら祭り」というのは毎年 8 月 16 日から 1 週間にわたっておこなわれる千葉神社の「妙見大祭」の別名。だらだらやっていたからではなく、太鼓を叩くリズムからこう呼ばれている。パルコとは無関係。

今思うと、背伸びしすぎて足首をグキッと骨折するようなモンだけど、やっぱり田舎にとってパルコの進出は大ファインプレイだったことだろう。パルコの商業は本当にセンセーショナルだったし。

愚痴愚痴言うのはやめて、今日の主役の話をしよう。主役はその旧パルコの手前にたたずむ、何に使われているのか、ちょっと見ではわかりづらい広場のような公園だ。週末になると音楽やグルメなどのイベントが開催されるものの、平日は静かなもので、公園の傍らで将棋を指すおじいさんたちが目立つくらいだ。

ここは中央公園という残念なネーミングの公園。中央区にあるから中央公園？千葉市ナンバーワンの公園だから？うーん、何なんだろう…。でも、正直言って千葉市に関わりのない人にとっては、無名の芸能人の結婚ネタと同じくらいどうでもいいことなので、その名前の由来を調べるのはやめておこう（笑）

しかし、この公園の場所は古くから千葉市の中心地として賑わっていた。



(昭和13年)

地図を見ていただくと、赤いマーカーが中央公園で、その下は「通町通り（とおりまちどおり）」と、通が重複するというちょっとイケてない名前で呼ばれていて、ここを東に進むと広小路交差点になる。中央公園のすぐ横を南北を貫いているのは千葉銀座通り（栄町通り）で、この通りは県庁と旧千葉駅を結ぶかつてのメインストリートだ。ところで広小路交差点は旧本町通り（今は国道 126 号線＝東金街道）と佐倉街道（国道 51 号線）の交差点であり、千葉氏の守護神である妙見菩薩を本尊とする千葉神社にも面していた、まさに千葉の中心地、東京で言う日本橋のような存在だ。

公園のセンターには噴水のようなものがある。今は水が出るのかわからないけど、当初はもっと派手な噴水だったらしい。ところが世の中の流れなのか、間違っって噴水を浴びてしまった偉い人がいたのか、公園の中でやや隅の方に移動させられたようだ。

しかしこの公園の前身はなんと京成千葉駅と駅前広場だ。今はここには駅も線路もないけど、京成千葉線の津田沼～千葉が開通した 1921 年（大正 10 年）から 1958 年（昭和 33 年）まで、ここはまさに「駅」と「ターミナル」として使われていた。京成線は字のごとく、東京と成田を結ぶ路線だけど、実はこの千葉線の方が早くに開業していて、京成津田沼から千葉海岸（現在の西登戸）、浜海岸（現在のみどり台）など、埋め立て前の海岸線を走ってここ京成千葉駅が終点になっていた。

国鉄千葉駅も要町（今の市民会館の場所）にありやや不便だったこともあり、この中心地にオープンした京成千葉駅周辺は大変な賑わいになった。しかも京成バスもここを起点にしたため、ターミナルとして機能したのだ。



戦前の京成千葉駅（写真で見る千葉市の昭和）



空襲を受けた京成千葉駅（写真で見る千葉市の昭和）

写真を見る限りだと、今のようなスマートな駅前ではないものの（言い換えればちょっとバッチィ 笑）、活気にあふれた賑やかな場所だったことがわかる。

駅前広場を取り囲む建物は、現在の三井ガーデンホテルの位置にあった千葉銀行本店、パルコの位置にあった扇屋百貨店など、商店や飲食店、映画館などが立ち並ぶ繁華街だった。

しかし昭和 20 年 6 月 10 日と 7 月 7 日と 2 度にわたる千葉空襲で市街地の 70%が焼け野原になってしまい、この周辺は駅舎も他の建物もすっかり焼失してしまう。

そして昭和 38 年、国鉄千葉駅が今の千葉駅に移転するタイミングに合わせて京成千葉線はルートが大きく変更されることになり、この場所にあった駅も線路もすべて撤収されることになった。新たな京成千葉線は今の JR 線と並行して走ることになり、今の千葉中央駅が京成千葉駅となっ

た。

そんな黒、いや、グレー歴史を持つ中央公園。京成千葉駅もターミナルも、今の中央公園にはその面影も何もない。そしてそこから葭川沿いにあったはずの線路も跡形もない。イマドキの若者にその話をすると、え？ここに駅があったんすか？とビックリされる。せめて少しでも痕跡が残っていたらドヤ顔で説明して差し上げるのに残念。歴史から消してしまわなければならない事情があったのかもしれない。

今は当然のようにそこに存在している駅も線路も、戦争と復興、そこに関わった人たちの思惑や力関係で、紆余曲折を経ながら今のように落ち着いたんだらう。もし少しでも力関係が違っていたら、モノレールの下を走る京成線の姿が見れたのかもしれない。そうだったら、街の様子もだいぶ変わっていたんだらうな。



おっと、今日はマジになってしまった。でも、昔の駅の写真を見ると、ホントいいんだよねえ。もちろんそのままにはできなかったんだらうけど、三井ガーデンホテルの壁に昔のイメージを映すプロジェクションマッピングなんて、見てみたいもんだよね。アナタもそう思うでしょ？？

最後の写真はルミラージュ千葉という、いわゆる街のイルミネーション。そう、千葉市だって頑張っているんだ。規模も明るさも東京とは比べ物にならないけど、年末年始は人が集まってきてそれなりに盛り上がる。まあ、ツッコミどころ満載というか、ツッコめないところがないくらい隙だらけだけど、私はそれでも大好きだよ。凄さに見とれてアングリするだけじゃあ、コミュニケーションも何もあったもんじゃないからね。



ツッコミ担当：田中幸穂
文章・写真担当：小川順一